

■ ■ 共同研究・受託研究に関するアンケート調査結果 ■ ■

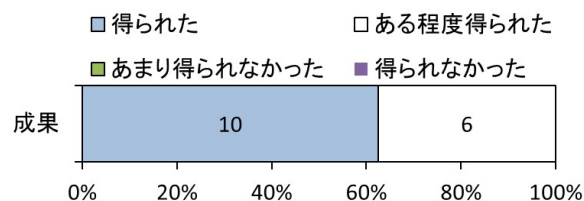
令和7年度に共同研究及び受託研究を実施した企業等を対象にアンケートを実施し、満足度を調査しました。その結果、全16社から貴重なご意見・ご要望をいただきました。調査内容及び調査結果は以下のとおりです。

《調査内容》

調査目的	中期業務計画(令和4～8年度)に基づき、共同研究及び受託研究利用企業の満足度等を調査し業務改善に役立てる。
調査対象	16テーマ(16社)
調査期間	令和8年4月22日～6月4日
調査方法	調査票をメール送付
調査票	選択式及び記述式、9項目

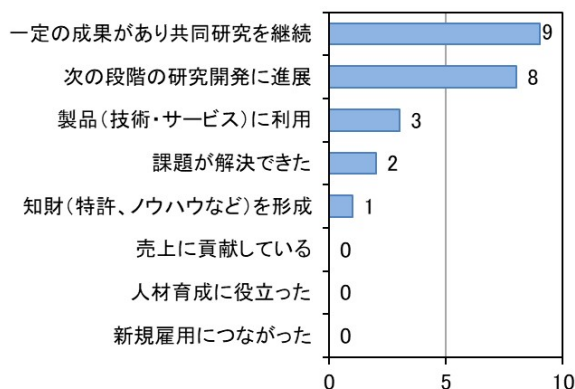
《調査結果》

Q1. 期待した成果が得られましたか



全ての企業から「得られた」、「ある程度得られた」との回答でした。

Q2. どのような成果がありましたか(複数回答)



成果として、製品開発や実用化が進んだ、技術価値を向上できた、などの回答がありました。

Q3. センターの対応について



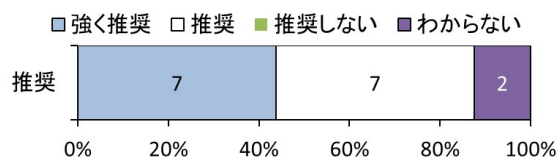
全ての企業から「非常に満足」、「満足」との回答が得られました。

Q4. 今後も実施したいと思いますか



全ての企業から「積極的に実施したい」、「必要があれば実施したい」との回答が得られました。

Q5. センターの利用の推奨について



他の企業、事業者にセンターの利用を推奨するかの問いに対しても、ほとんどが推奨すると回答いただきました。

アンケート結果を参考に、利用企業の利便性の向上を図るとともに、今後も利用満足度100%を目指し、業務改善に努めてまいります。

当センターでは、今年度も共同研究及び受託研究を行っています。研究の実施にご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

最後にアンケート調査にご協力いただきました企業の皆様に感謝いたします。

■■第10回取組事例報告会を開催しました■■

6月10日に県庁18階かごゆいテラスで「鹿児島県における溶接技術と業界の取組み」と題して、第10回目となる取組事例報告会を開催しました。

溶接技術は、身の回りの製品からインフラなどの見えない場所まで、地域の生活・安全・産業を支える重要な基盤技術です。企業・県・協会が連携することで、技術の継承や品質向上を図り、地域産業の発展につなげています。

今回は株式会社マツオの山下 泰右代表取締役専務が業務概要や製品事例等を、当センター生産技術部の堀之内 悠介研究専門員が試験・評価・技術支援の取組みについて紹介しました。

製造業者や県の関係者ら42名が参加し、報告会の内容に熱心に耳を傾けていました。



■■特許登録「ゼオライト複合体及びその製造方法」■■

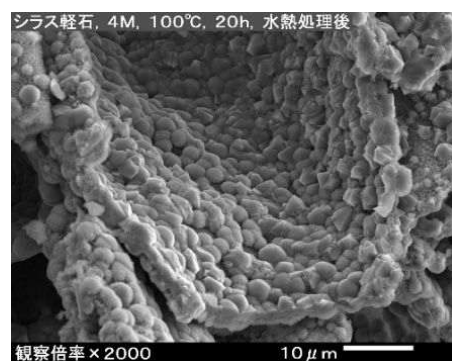
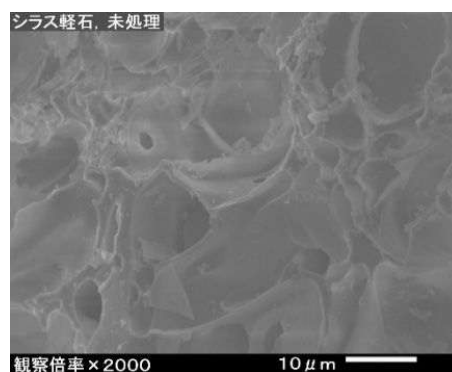
県と(地独)神奈川県立産業技術総合研究所が願した「ゼオライト複合体及びその製造方法」が令和7年12月25日に特許登録されました(特許第7796381号)。

本発明は、軽石をアルカリ溶液中100℃程度で加熱することにより、軽石の表面のみをゼオライト化したゼオライト複合体に関する技術です。

原料に使用する軽石は、シラスに含まれる軽石だけではなく、令和3年に話題になった海底火山「福德岡ノ場」の噴火による漂着軽石など様々な軽石を使用できます。

ゼオライトは1ナノメートル(100万分の1ミリメートル)程度の細孔により特定の物質を吸着でき、浄化材などに利用されています。本発明では軽石の表面にアンモニウムイオンやセシウムイオンを選択的に吸着できるゼオライトの生成に成功しました。

本発明を用いることで、ゼオライトと軽石の特徴を併せ持つ新しい材料の商品化が期待されます。



シラス軽石(上)とゼオライト複合体(下)の表面画